

## 冷夏の影響について

～ 4社に1社が冷夏の影響を指摘～

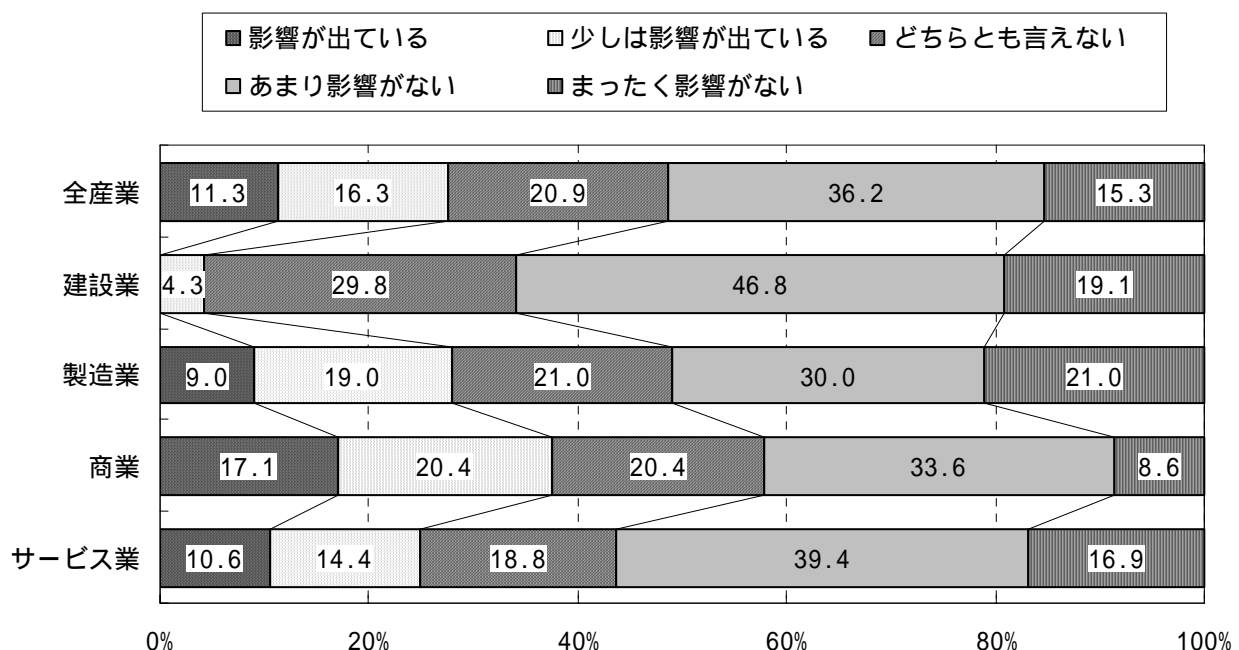
昨年は全国的に93年以来10年ぶりの冷夏にみまわれた。農林水産省が公表した米の作況指数によると、昨年の作況指数は平年100に対して90となり、ランク別にみると最もランクが低い「著しい不良」に該当している。また、日本電気大型店協会の発表によれば、昨年7月のエアコン販売額は前年比44.3%となり、ビール酒造組合が発表したビール出荷数量に関しても、昨年7月は前年比16.0%となっている。

こういった報告からも分かるように、天候や気象は産業界に様々な影響をあたえる不確定要因であり、最近はそういったリスクを回避する目的で天候デリバティブといった金融商品の利用も進んでいる。そこで、昨年の冷夏が県内企業にどのような影響をあたえているのかについて調査・分析を行った。

### 冷夏の影響

全産業において、「冷夏の影響が出ている」とした企業は11.3%、また「少しは影響が出ている」とする企業も16.3%あり、27.6%の企業が何らかの形で冷夏の影響を受けていることがわかった。逆に、「あまり影響がない」、「まったく影響がない」とする企業はそれぞれ36.2%、15.3%であり、影響がないという企業は全体の過半数を占めた。また、「どちらとも言えない」とする企業は20.9%であった。

業種別にみると、商業では影響を受けている（「影響が出ている」または「少しは影響が出ている」）とした企業が37.5%となり、他業種に比べ影響の度合いが高いことがわかった。また、製造業では28.0%、サービス業では25.0%の企業が影響を受けているが、建設業では影響を受けている企業は4.3%に留まり、ほとんど影響がなかったものと考えられる。



## 影響の内容

冷夏の影響を受けている(「影響が出ている」または「少しは影響が出ている」とした企業に、どのような影響を受けているのかを聞いてみた。全産業において、「売上高が減少した」とした企業が85.2%と突出して多く、次いで「仕入価格が上昇した」(16.4%)、「その他」(9.8%)、「在庫が増加した」(4.1%)の順となっている。その他の内容としては「物流規模の縮小」や「設備投資意欲の減退」といったことが挙げられている。一方、マイナスの影響だけではなく、「売上高が増加した」とするプラスの影響を受けている企業も3.3%あることがわかった。

業種別にみると、商業の9割以上が「売上高が減少した」としており、他産業に比べ高い割合となっている。また、製造業では「仕入価格が上昇した」とする企業が比較的多くなっている。

【複数回答】(%)

	建設業	製造業	商業	サービス業	全産業
売上高が増加した	0.0	3.6	1.8	5.4	3.3
売上高が減少した	50.0	71.4	92.7	86.5	85.2
仕入価格が上昇した	0.0	39.3	12.7	5.4	16.4
仕入価格が低下した	0.0	0.0	5.5	0.0	2.5
在庫が増加した	0.0	7.1	5.5	0.0	4.1
在庫が減少した	0.0	3.6	3.6	0.0	2.5
その他	50.0	10.7	3.6	16.2	9.8